

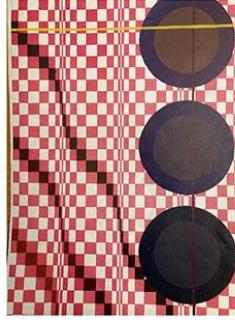
学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野				
科目名	美容理論（メイク）	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ね らい	メイク技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す						
授業回	学習内容			備 考			
1	1. メイクアップ概論・メイクアップの道具 2. ゴールデンプロポーション <b>【到達目標】</b> 1. メイクアップアーティストとしての心構えや道具の種類を理解する 2. ゴールデンプロポーションの比率を理解する						
2	1. メイクアップと色彩 2. スキンケア 皮膚の構造 <b>【到達目標】</b> 1. 色の色相、明度、彩度を理解する。 2. 皮膚の構造と肌別のスキンケア方法を理解する						
3・4	メイクテクニックメイクテクニック（スキンケア、コントロールカラー、ファンデーション、アイブロウ、アイシャドウ、アイライン） <b>【到達目標】</b> スキンケア、コントロールカラー、ファンデーション、アイブロウ、アイシャドウ、アイラインのメイクテクニックを理解する						
到達目標	メイクアップ（顔のプロポーション,色彩, 皮膚の構造）の基礎知識が理解できている						
評価方法	期末実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論2」（日本理容美容教育センター指定教科書）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容理論（ネイル）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	ネイル技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	ネイル概論・爪の構造と働き・爪や皮膚の病気とトラブル 【到達目標】ネイルの歴史やネイルの技術体系、爪の構造と働きを理解し、適切なサービスを提供するうえで、皮膚の病気やトラブルを理解し、施術のが可能かどうか適切な判断ができるようにする				
3・4	リペア・イクステンションの用具・用材と使用目的 【到達目標】リペア・イクステンションで使用する用具・用材の使用目的を理解する				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 赤ポリッシュを美しく塗ること、花のネイルアートを描くことができるようになる ネイル技能検定3級に合格				
評価方法	期末実技試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）に対し未出席の学生は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	村田		
科目名	美容理論（化粧品検定2級）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	美容部員として必要な手技や知識を学び企業人としての見識や教養を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	皮膚・肌について知る：皮膚の構造を知り、各々のはたらきを知る。				
2	肌の手入れ：肌に起こりうるトラブルとその正しい手入れ方法を学ぶ。				
3	メイクアップの基本テクニック：一般的なメイクの手順と肌悩みに応じたメイクの手法について学ぶ。				
4	美肌のために：紫外線などの肌に影響を与える様々な要因を知り、美肌の維持に何が必要かを学ぶ。				
5	総合演習				
到達目標	化粧品検定2級を通して、美容部員としての通常業務において必要な手技・用語の理解、知識の獲得。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本化粧品検定2級公式テキスト				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	池田		
科目名	美容美術（デッサン）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	座学・実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	色彩の理論を理解し、それを応用したテーマ作品を根気よく創造し、色彩の美を体感できるようになる。期待に添えるヘアメイクの技術提供ができるようになるため、美術の教養と技術を身につける。				
授業回	学習内容			備 考	
1	<p><b>1.授業のガイダンス</b></p> <p>2.色彩の基礎Ⅰ-色の2.原色より色相環の作成</p> <p>[到達目標]①PCCSの色番号やトーンなど色彩の基礎を解釈する。②3原色の絵の具を適量混ぜながら24色相を作り出し相応しい色を着色する。隣同士が同じような色にならず、均等配色を目指し、色の段階や色相の配置を体感できる。③水量を調節しムラなくはみ出さずに美しく着色できる。</p>			A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	
2	<p><b>1.人物デッサンⅠ-顔の描写と韓流メイク</b></p> <p>[到達目標]①バランスよく、おでこ、鼻、唇、目などを描けるようになる。②並行眉、まつげの向き、涙袋の下のラインの強調など描写しながら習得する。</p> <p><b>2.色彩の基礎Ⅱ-トーン表</b></p> <p>[到達目標]①明度、彩度、中間色など色彩の理解を深める。②一つの色相を選び、そのトーン表の作成をする。例えば赤（色相）白,黒の絵の具の量を調節して混色し12トーンを作る。</p>			色鉛筆、鉛筆、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	
3	<p><b>1.色彩の基礎Ⅲ-補色の混色、グラデーションづくり、各肌色に似合う髪色</b></p> <p>[到達目標]①補色同士の混色をしグレーを作る。金髪色に紫や赤みの頬にグリーンのコントロールカラーの例より補色同士の混合による彩度の緩和を行う。②色相24、2、4、6、8（マゼンタ、赤、オレンジ、黄）に黒を混ぜて赤系から黄系の茶色をつくる。③ピンク系に似合うブルーベース、オークル系の肌に似合うイエローベースの色や、パーソナルカラー、4シーズンの色彩を分類する。④色相を用いた、または、トーンを用いたグラデーションを選んだ色で作る。色の境目ができないように筆跡を重ねてなだらかに見せる。</p> <p><b>2.次回のバラのデザイン画のマス引きをする。</b></p>			A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	

授業回	学習内容	備 考
4	<p><b>1.バラのデザイン画Ⅰ-下書きと配色計画、着色</b></p> <p>[到達目標]①模写の方法を学ぶ。直線か、曲線か、線の凹凸の位置、ガイドの線のどこを通っているかなど、模写の方法やコツを学び実施する。1マス1マス確認しながら輪郭線の模写をする。②第1-3回の色彩の基礎の演習と学習を生かし、色相環を使ったグラデーション、1色相でトーンを変化させるグラデーション等、バラの配色の計画を立てる。③モノトーンのバラの写真の1-5段階の明暗（白～黒）を、計画した明暗5色のカラーのグラデーションに置き換えることができる。いちばん暗い部分を3段階くらいのグラデーションで塗る。☒</p>	絵の具一式、定規、水入れ、配色カード
5	<p><b>バラのデザイン画Ⅱ-着色と背景</b></p> <p>[到達目標]③一つの花びらの中に5,6色ほどのグラデーションの変化があることを理解し、写真のグラデーションの色の変化と同様に明暗の5-6段階で塗り分ける。①稜線を意識し、形、面が変わるとこは色が変わることを理解し立体感を出す。②直線や曲線などの細部の描写、色彩や線により、心情や個性を表現する。④配色カードを当て背景によりバラの見え方が変化することを理解し効果的な背景色を選んで塗る。⑤十人十色のバラのデザイン画を鑑賞しデザイン性の高い、完成度の高い美しい作品を考え、自らの完成度を客観的に評価し、改善すべき点を述べる。</p>	絵の具一式、定規、水入れ、配色カード
6	<p><b>1.バラのデザイン画Ⅲ-仕上げ</b> ①配色カードを当て背景によりバラの見え方が変化することを理解し効果的な背景色を選んで塗る。十人十色のバラのデザイン画を鑑賞しデザイン性の高い、完成度の高い美しい作品を考え、自らの完成度を客観的に評価し、改善すべき点を述べる。</p> <p><b>2.人物デッサンⅡ-前、横からの頭部の描写</b></p> <p>[到達目標]①バランスよく、おでこ、鼻、唇、目などを描けるようになる。②毛髪は曲線の傾きを追って描き、鉛筆の濃淡や練りゴムで光（白）を入れることで明暗、艶を出し立体感を学出す。美容の現場で美しい女性が短時間で描けるようになることを目指す。</p>	色鉛筆、鉛筆、練りゴム
7	<p><b>1.人物デッサンⅢ-色鉛筆を用いた描写</b></p> <p>[到達目標]①顔の形、左右の目の大きさなどバランスよく描けるようになる。②色鉛筆を混ぜて影などを塗り分け立体感を出す。色鉛筆の濃淡で毛髪のカラーのグラデーションを作ることができる。</p> <p><b>2.選択デザイン-次課題の解説Ⅰ</b></p>	色鉛筆、鉛筆、練りゴム

授業回	学習内容	備 考
8	<b>選択デザイン-数などを用いたデザインの考案Ⅰ</b> [到達目標]シンメトリー、リピート、関数、黄金比の美を理解し、選んだテーマに沿って作品を考案する。①計画：二乗した数の合計が用紙にうまく入るよう縮小したり、作品が中央に配置されるなどレイアウトができる。②色彩計画：モノトーンと有彩色、360度色相、2色相のグラデーションなど配色計画を立てる。③マスキング、定規、コンパスなどの道具を用いて美しく作図、着色を1.2割まで進める。	A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード
9	<b>選択デザイン-数などを用いたデザインの考案Ⅱ</b> [到達目標]①作品のグラデーションの変化が適切か、ワンポイントに他色相の色を低面積に入れるなど配色カードを用いて検討しながら作品を着彩を6.7割まで進める。	絵の具一式、定規、水入れ、配色カード
10	<b>選択デザイン</b> [到達目標]丁寧に仕上げる。数などを用いたデザインの考案Ⅲ 無から作品を作り出す喜びを味わう。シンメトリーはヘアーやファッショショ等舞台の構成でもよく使われる。リピートでは同じ形を繰り返し使う効果を学習、関数を用いたデザインでは数倍または2乗した数の並びの美しさを学ぶ。その中でデザイン力が向上し他の学習面への興味も高まる。	絵の具一式、定規、水入れ、配色カード
授業作品例		      
到達目標	色彩の理論を用いた色彩計画や配置に基づき美しい作品を創造することができる。また業界で役立つ色彩検定の取得を目指す。美術の教養と技術を身につけ色彩の美を体感できるようになる。期待に添えるヘアメイクの技術提供のため人物画を描くことができるようになる。	
評価方法	作品のデザイン性と完成度、仕上がりで、各課題を採点します。課題にかかる時間数や重要度により、色彩の基礎、人物デッサン1、小テスト、バラのデザイン画、人物デッサン2、選択デザイン、副課題の加点、提出遅れや居眠り、制作遅れ等の減点、をそれぞれ1.5: 1.5: 1: 2: 1.5: 2 (予定) で集計し成績点といたします。全課題を提出する必要があります。	
テキスト	プリント	

学科	ビューティアーティスト科		担当教員	藤野	
科目名	美容実習（ユニオンメイク）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択の別	必須	授業時間(単位)	50
教育目標・ねらい	ユニオンテキストを基としてメイクの基礎を理解し、標準バランスのメイクができるようになる				
授業回	学習内容				備 考
1	基礎	メイク道具の取り扱い方、テーブルセッティング方法			
2.3	基礎ベース	スキンケア、フェイスマッサージ、クレンジングの手順 ※各メイクごとにクレンジング 展示、実習			
4.5	基礎ベース	ベース、ファンデーション、コンシーラー、パウダー ハイライト、シェーディング ※1 スポンジ、ブラシ、素手など使用する道具の違いを理解する ※2 固形、パウダー、リキッドなど質感の違いを伝える			
6.7	基礎アイ①	アイブロー、アイブローパウダー、眉の整え方（カット、トリミング、ツウイーズ）			
8.9	基礎アイ②	アイシャドー、アイライナーペンシル			
10~15	基礎アイ③	アイシャドー、アイライナーペンシル、リキッドアイライナー、ビューラー、マスカラ			
16.17	基礎リップ	リップ、リップライナー			
18.19	基礎チーク	チーク(ハイライト、シェーディング復習) ※ パウダー、リキッド、固形の各種で実習			
20.21	フルメイク	スキンケアからのフルメイク①40分 ※ 各モデルごとにbefore・afterの写真を撮り、フェイスチャートにまとめる			
22.23		スキンケアからのフルメイク②40分			
24.25		《前期実技試験》 スキンケアからのフルメイク40分			
到達目標	メイクの基礎を理解し、標準バランスのメイクができるようになる。				

評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない
テキスト	ユニオン公式テキスト、プリント
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う

学科	ビューティアーティスト科		担当教員	藤野				
科目名	美容実習（ユニオンメイク）	学 年	1	実施時期	後期			
授業形態	実習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	40			
教育目標・ねらい	ユニオンテキストを基として顔分析（スペースバランス）、キュート、フレッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得							
授業回	学習内容			備 考				
1.2	顔分析	顔分析、余白タイプ別メイク方法						
3.4		顔型のパターン、顔の縦・横のバランス、眉・目・唇のパ						
5.6		子供顔、大人顔、男性的、女性的 ※ before・afterで写真を撮り、フェイスチャートにまとめる						
7.8	イメージ別 メイク	キュート メイク						
9.10		フレッシュ メイク			※イメージに合わせてマット、セミマット・ツヤ・グロッシーな肌づくり、リップ・アイ・チークイメージに合わせた色、形を学ぶ			
11.12		クール メイク						
13.14		エレガント メイク						
15.16		イメージ別メイクトレーニング 40分 ※ キュート⇒フレッシュなどベースはそのままメイクチェンジなども実習						
17.18		イメージ別メイクトレーニング 40分 ※ クール⇒エレガントなどベースはそのままメイクチェンジなども実習						
19,20		《後期実技試験》 シーン、テーマに沿ったメイク 40分						
到達目標	顔分析（スペースバランス）、キュート、フレッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得							
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない							
テキスト	ユニオン公式テキスト、プリント							
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う							

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	安東		
科目名	美容実習（メイクセラピー）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	36
教育目標・ ねらい	化粧心理学、メイクセラピー的心理学、カウンセリング概論を理解する 「オーダー」された内容のメイクを施すことができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	メイクセラピー検定とは？受験の心得、注意点 カウンセリング概論① 【到達目標】メイクセラピーの手法を理解する				
2	印象分析（パーツバランス） 【到達目標】印象の違いを心理学に基づき理解する				
3	色彩とメイク 【到達目標】色彩がメイクや印象に与える効果を理解する				
4	メイク実習①（求心・遠心） 【到達目標】元の顔立ちから印象を変えるメイクができるようになる				
5	化粧心理学 【到達目標】化粧と心理学の繋がりを理解する				
6	メイク実習②（穏やか） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
7	メイクセラピー的心理学 【到達目標】メイクセラピーに関連する心理学を理解する				
8	メイク実習③（知的） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
9	印象分析（コミュニケーション）カウンセリング概論② 【到達目標】コミュニケーションに関連した心理学を理解する				
10	メイク実習④（元気） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
11	メイク実習⑤（華やか） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
12	メイク実習⑥（可愛い） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
13	論述問題対策① 【到達目標】論述問題の記述方法が理解できる				
14	論述問題対策② 【到達目標】論述問題の記述方法が理解できる				

授業回	学習内容	備 考
15	筆記及び実技試験の総復習 【到達目標】合格レベルに達する知識と技術を身に着ける	
16	筆記及び実技試験の総復習 【到達目標】合格レベルに達する知識と技術を身に着ける	
17	メイクセラピー検定2級 筆記	
18	メイクセラピー検定2級 実技	
到達目標	化粧心理学、メイクセラピー的心理学、カウンセリング概論を理解する 「オーダー」された内容のメイクを施すことができる	
評価方法	実技/筆記試験の合計(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない	
テキスト	メイクセラピー検定2級テキスト	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容部員の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤		
科目名	美容実習(セット試験課題)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	80
教育目標・ ねらい	ヘアセットを学びながら、ヘアメイクアップアーティストに必要な心構えや技術修得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	ウィッグ配布、道具の並べ方、頭部・道具の名称 ウェット、7スライス、コーミング  【到達目標】 道具のおき方、頭部の名称、道具の名称、使用目的を理解する コームの持ち方、コームの回転、ウェットの仕方、スライスの取り方、コーミングの仕方が理解できる				
2	カールアイロン ホットカーラー  【到達目標】 ・カールアイロンを使用し、フォワード・リバースカールが出来るようになる ・オンベース、オフベースを理解しホットカーラーを巻けるようになる				
3	ピニング 黒ゴム  【到達目標】 ・ピンの使用目的、使用方法を理解し、ピニング出来るようになる ・黒ゴムの使用目的、使用方法を理解する				
4	一束 すき毛  【到達目標】 ・黒ゴムを使用し毛束を1つに束ねることが出来るようになる・すき毛の使用目的、使用方法を理解する				
6	すき毛一束 ボトムのデザイン  【到達目標】 ・すき毛を使用し一束を作れるようになる ・色々な方法でボトムをデザインすることが出来る				
7	逆毛 前髪  【到達目標】 ・逆毛の目的を理解し、逆毛を立てられるようになる ・下ろし流し立ち上げの前髪をつくれるようになる				
8	試験課題  【到達目標】試験課題を理解する				
16~20	試験課題 仕込み  【到達目標】 ・試験課題を理解する フロント、サイド、トップの理解を深める ・仕込みの方法を学習し、試験課題の理解を深める				
21~26	試験課題  【到達目標】 ・試験課題を理解を深める すき毛の形と大きさを理解する ・審査ポイントを理解し、課題の理解を深める				

授業回	学習内容	備 考
27～30	試験課題 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各パーツの作り方を復習し、課題の理解を深める</li> <li>各パーツ(フロント、サイド、トップ)の作り方を復習し、試験課題の理解を深める</li> </ul>	
31～33	試験課題 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験課題を30分で作れるようになる</li> <li>セットの基本技術(ブラシワーク、ピニング、黒ゴム)を習得し、面構成のスタイルを作成することが出来るようになる</li> </ul>	
34～35	試験課題 <b>【到達目標】</b> 試験課題を理解する	
36～37	試験課題 <b>【到達目標】</b> 試験課題を30分で作れるようになる	
38～40	実技試験 <b>【到達目標】</b> セットの基本技術(ブラシワーク、ピニング、黒ゴム)を修得し、面構成スタイルを作成することが出来るようになる	
到達目標	セットの基本技術(ブラシワーク、ピニング、黒ゴム)を習得し、面構成スタイルを作成することが出来るようになる	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない	
テキスト	配布資料	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤					
科目名	美容実習(デザインヘア)	学 年	1	実施時期	後期			
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20			
教育目標・ ねらい	ヘアセットにおけるポイントごとの技術力を高め、セットスタイルにおける総合力を高め 現場での即戦力化を目指す。							
授業回	学習内容			備 考				
1～2	カール 【到達目標】フォワードカール、リバースカールなど色々なカールを作れる ようになる							
3	ストレートアイロン 【到達目標】ストレートアイロンの正しい使い方を理解して、ストレートヘア とウェーブヘアを作ることが出来るようになる							
4～5	ブロー 【到達目標】デンマンブラシとロールブラシを使用し、ウィッグをブローする ことが出来るようになる							
6	編む 【到達目標】三つ編み、編み込みが出来るようになる							
7	ハーフアップ 【到達目標】アイロンワークの復習をしながらハーフアップの作品を作成する ことができる							
8	編み込み 【到達目標】アイロンワークの復習をしながら編み込み作品を作成するこ とができる							
9	お団子スタイル 【到達目標】アイロンワークの復習をしながらお団子スタイルを作成するこ とができる							
10	ヘアアレンジ 【到達目標】ホットカーラーを復習し、アレンジ作品を作成するこ とができる							
到達目標	ヘアメイク現場で必要なセット技術を身に付け、卒業後即戦力として活躍できるようになる							
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受 験することができない							
テキスト	配布資料							
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う							

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤				
科目名	美容実習(セット相モデル実習)	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ ねらい	ウィッグではなく人に技術を施すことで、憧れだった職業を現実的に体感し接客や技術力向上を目指す						
授業回	学習内容			備 考			
1	カウンセリング：カウンセリングシートをもとに要望を把握し、要望に応じたテクニックを学ぶ 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術を知識として理解して説明ができる						
2～6	相モデル実習 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術、それにこたえられる技術提供を実践を通して提供する事が出来る						
到達目標	モデルの要望を引き出し、カウンセリングシートにまとめ、対象者に応えられる技術提供ができる						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	配布資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（ネイル3級）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	48
教育目標・ ねらい	ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技能及び知識を習得する				
授業回	学習内容			備 考	
1	ネイル技能検定3級試験概要説明 【到達目標】ネイル技能検定3級試験の内容を理解する				
2	道具のセッティング、使用方法 テーブルセッティング 【到達目標】ネイル技能検定3級試験の衛生面を理解する 基本的なテーブルセッティングを習得する				
3	ウッドスティックの削り方 【到達目標】ウッドスティックをネイルアート、ネイルケアに使用できる形に削 ることができる				
4	ファイリング・カットスタイル 【到達目標】ファイリングとカットスタイルの種類と定義を理解する				
5・6	ネイルケア（セルフ） 【到達目標】自身の爪のプッシュバック・プッシュアップを行い、プッシャー 持ち方、角度、力の強さなどを理解する				
7・8	ネイルケア（セルフ） 【到達目標】自身のルースキューティクルを処理し、ニッパー持ち方、ニッ パーの角度、運行の仕方などを理解する				
9・10	ネイルケア（相モデル） 【到達目標】自身のルースキューティクルを処理し、ニッパー持ち方、ニッ パーの角度、運行の仕方などを理解する				
11・12	カラーリング（セルフ→相モデル） 【到達目標】赤ポリッシュをムラなくキレイに塗ることができる				
13・14	ネイルアート（ネイルチップ） 【到達目標】花のアートを描く手順を理解し、花のアートを描くことができる				
15～17	タイムトライアル 【到達目標】3級実技試験の一連の流れを理解し、ネイルケアから時間内に 終わらせる				
18～21	出欠確認・事前審査（10分）実技模擬試験（70分）講評 【到達目標】ネイル検定3級実技試験同様に衛生面、事前審査、仕上がり審 査を行い、各自の課題を見つける				

授業回	学習内容	備 考
22~24	出欠確認・事前審査（10分） 実技模擬試験（70分） 講評 【到達目標】ネイル検定3級実技試験同様に衛生面、事前審査、仕上がり審査を行い、3級受験の準備と心構えをする	
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用し、ネイルケアを仕上げることができる 赤ポリッシュを美しく塗ること、花のネイルアートを描くことができる ネJNECネイリスト技能検定試験3級合格	
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	境				
科目名	美容実習（ネイル3級）	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る						
授業回	学習内容			備 考			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定3級試験概要説明</li> <li>ファイリングカットスタイル/ファイリング</li> </ul> <p>【到達目標】ネイル道具のセッティングができるようになり、ネイル技能検定3級試験の内容を理解する</p> <p>ファイリングカットスタイルの種類と定義を理解し、「ラウンド」の定義を説明・実践することができるようになる</p>						
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネイルケア、ニッパー</li> </ul> <p>【到達目標】プッシャーをプッシュバック・プッシュアップ、ニッパーハンドリングができるようになる</p>						
3	カラーリング/ネイルアート <p>【到達目標】赤ポリッシュをムラなくきれいに塗ることができるようになる。花のアートの描く手順を理解し、水分量を調節しながら花のアートを描くことができるようになる。</p>						
4	ネイル技能検定対策 <p>【到達目標】ネイル技能検定3級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来る</p>						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 赤ポリッシュを美しく塗ること、花のネイルアートを描くことができるようになる ネイル技能検定3級に合格						
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	JNAテクニカルテキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢				
科目名	美容実習（ネイル2級）	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	38		
教育目標・ ねらい	サロンワークで通用するネイルケア、リペア、チップ＆ラップ、ネイルアートに関する技能及び知識を習得する						
授業回	学習内容			備 考			
1	ネイル技能検定2級試験概要説明 道具のセッティング、使用方法、テーブルセッティング 【到達目標】ネイル技能検定2級試験の内容、テーブルセッティングを理解する						
2	ファイリング・カットスタイル 【到達目標】検定2級レベルのファイリングとカットスタイル「ラウンド」を理解しファイリングできるようになる						
3・4	ファイリング・カットスタイル（相モデル） 【到達目標】「ラウンド」の形を理解し片手5本ファイリングで揃えることができる						
5・6	カラーリング（セルフ→相モデル） 【到達目標】検定指定カラーのポリッシュをキレイに塗る手順を理解する						
7・8	チップラップ 【到達目標】チップラップの手法を理解して手順を覚える						
9～12	タイムトライアル 【到達目標】2級実技試験の一連の流れを理解し、ネイルケアから時間内に終わらせる						
13～15	出欠確認・事前審査（10分）実技模擬試験・前半（35分）実技模擬試験・後半（55分）講評 【到達目標】ネイル検定2級実技試験同様に衛生面、事前審査、仕上がり審査を行い、各自の課題を見つける						
16～19	出欠確認・事前審査（10分）実技模擬試験・前半（35分）実技模擬試験・後半（55分）講評 【到達目標】ネイル検定2級実技試験同様に衛生面、事前審査、仕上がり審査を行い、2級受験の準備と心構えをする						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 指定カラーをきれいに塗布、チップ＆ラップができるようになる JNECネイリスト技能検定試験2級合格						
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	境				
科目名	美容実習（ネイル2級）	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20		
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る						
授業回	学習内容			備 考			
1	・道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定2級試験概要説明 ・2級レベルケア・カラーリング <b>【到達目標】</b> ネイル技能検定2級試験の内容を理解する 2級レベルの技術を習得する						
2	・チップ＆ラップ説明、練習 <b>【到達目標】</b> 2級必須項目のチップ＆ラップを理解し習得する						
3	タイムトライアル <b>【到達目標】</b> 正しく道具を使用し、ネイルケアから仕上げまで時間内に終わらせることができるようになる						
4	ネイル技能検定対策 <b>【到達目標】</b> ネイル技能検定2級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来る						
5	ネイル技能検定対策 <b>【到達目標】</b> ネイル技能検定2級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来る						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 指定カラーをきれいに塗布、チップ＆ラップができるようになる ネイル技能検定2級に合格						
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	JNAテクニカルテキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢				
科目名	美容実習(ジェルネイル初級)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20		
教育目標・ ねらい	ネイルケアのベーシックマスターとジェルネイルを施術するために必要な基礎的知識と技術を習得する						
授業回	学習内容			備 考			
1	道具のセッティング、使用方法/初級工程確認 【到達目標】ネイル道具のセッティングができるようになり、ジェルネイルの特性を理解する						
2	赤ポリッシュと赤ジェル塗布練習 【到達目標】ジェルネイルの特性を理解し、ジェル検定初級の技術を習得する						
3	ジェルオフ 【到達目標】ジェルネイルのオフの仕方を理解し、ナチュラルネイルにダメージを与えないオフを修得する						
4	ピーコック 【到達目標】ジェルネイルの特性を理解し、ジェルアートピーコックを美し表現できる						
5	タイムトライアルA 【到達目標】初級実技試験の一連の流れを理解し、ネイルケアから時間内に終わらせる						
6・7	タイムトライアルB 【到達目標】初級実技試験の一連の流れを理解し、ネイルケアから時間内に終わらせる						
8~10	出欠確認・事前審査(15分)実技模擬試験・第1課題(35分)実技模擬試験・第2課題(70分)講評 【到達目標】ジェルネイル検定初級実技試験同様に衛生面、事前審査、仕上がり審査を行い、各自の課題を見つける						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用し、ジェルネイルの基礎を施術することができるようになる JNAジェルネイル技能検定試験初級合格						
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック・JNAテクニカルシステム～ジェルネイル～						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名	美容実習(ジェルネイル初級)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る				
授業回	学習内容			備 考	
1	・道具のセッティング、使用方法/初級工程確認 <b>【到達目標】</b> ネイル道具のセッティングができるようになり、ジェルネイルの特性を理解する				
2	・赤ポリッシュと赤ジェル塗布練習 <b>【到達目標】</b> ジェルネイルの特性を理解し、ジェル検定初級の技術を習得する				
3	・ピーコックアート <b>【到達目標】</b> ジェルネイルの特性を理解し、ジェル検定初級の技術を習得する				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNAジェルネイル検定初級合格				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢				
科目名	美容実習(ジェルネイル中級)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20		
教育目標・ ねらい	ネイルケアとジェルネイルを施術するためにプロとしてサロンワークに必要な専門的知識と技術の習得する						
授業回	学習内容			備 考			
1	道具のセッティング、使用方法/中級工程確認、ハンドの使用方法 【到達目標】ネイル道具のセッティングができるようになる ハンドの使い方、ハンドの仕込みについて						
2	ハンドの仕込み、ネイルチップの選び方、ミクスチャーの使用方法 【到達目標】検定試験用ハンドの仕込みのやり方を理解し、規定に合格する チップの装着方法を習得する						
3	ハンドの仕込み、ハンドによるラウンドの作り方 【到達目標】検定試験用ハンドの仕込み（ラウンド）の形の作り方、チェック方法を理解する						
4	・ピンクグラデーション説明、練習 【到達目標】ジェルネイルの特性を理解し、グラデーションができるようになる						
5	・フレンチネイル説明、練習 【到達目標】ジェルネイルの特性を理解し、フレンチネイルができるようになる						
6	・ジェルスカルプチュア説明、練習 【到達目標】ジェルネイルの特性を理解し、長さ出しができるようになる						
7・8	タイムトライアル 【到達目標】中級実技試験の一連の流れを理解し、時間内に終わらせる						
9・10	タイムトライアル 【到達目標】中級実技試験の一連の流れを理解し、効率の改善をし時間ないに合格レベルに仕上げる						
到達目標	プロレベルのネイルケアとジェルネイル（長さ出し、フレンチ、ピンクのグラデーション）を施術することができる JNAジェルネイル技能検定試験中級合格						
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック・JNAテクニカルシステム～ジェルネイル～						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名	美容実習(ジェルネイル中級)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る				
授業回	学習内容			備 考	
1	・道具のセッティング、使用方法/中級説明 <b>【到達目標】</b> ジェルネイルの特性を理解し中級レベルの技術を習得する				
2	・ピンクグラデーション説明、練習 <b>【到達目標】</b> ジェルネイルの特性を理解し、グラデーションができる ようになる				
3	・フレンチネイル説明、練習 <b>【到達目標】</b> ジェルネイルの特性を理解し、フレンチネイルができる ようになる				
4	・ジェルスカルプチュア説明、練習 <b>【到達目標】</b> ジェルネイルの特性を理解し、長さ出しができるよう になる				
5	タイムトライアル <b>【到達目標】</b> 正しく道具を使用し、仕上げまで時間内に終わらせるこ とができるようになる				
6	ジェルネイル技能検定対策 <b>【到達目標】</b> ジェルネイル技能検定中級受験と同じスケジュールで技 術工程を行うことが出来る				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNAジェルネイル検定中級合格				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験 することができない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイ リスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト 養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（着付け）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	浴衣の補正、自装、他装の着付けができるようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1	浴衣の着付けについて 【到達目標】道具の名称、浴衣のたたみ方、補正の仕方を理解する				
2	浴衣の着方（自装） 【到達目標】タオルで補正し、浴衣を着ることができる 文庫結びができるようになる				
3	浴衣の着付け（他装） 【到達目標】タオルで補正し、浴衣を着付け、文庫結びをすることができる				
到達目標	浴衣の補正、自分で着ることができる、他人に着付けることができる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験 することができない				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・小山内				
科目名	美容実習(ブライダル)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24		
教育目標・ ねらい	ブライダル業界に必要な知識や技術を学び、ブライダル業界への関心を深める						
授業回	学習内容			備 考			
1	ブライダル検定概要 【到達目標】ブライダル業界で働くうえで必要な知識を学ぶと共に和装花嫁の髪の知識・技術を習得する						
2	マナー・接客について 【到達目標】ブライダル業界における礼儀やマナーを理解する						
3	礼装について 【到達目標】礼装の種類を理解する						
4・5	髪の装着 【到達目標】髪の装着方法を学び、装着できるようになる			※かつらのレンタル は2週間			
6~8	プライズビューティマイスター検定模擬試験						
9~11	プライズビューティマイスター検定実技試験			学内試験			
12	プライズビューティマイスター検定筆記試験						
到達目標	(1) ブライダル業界に必要な知識や技術を学び、ブライダル業界への関心を深め、卒業後即戦力となり活躍できるようになる (2) プライズビューティマイスター検定合格						
評価方法	学内検定試験より100点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	プライズビューティマイスター テキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は36年以上のヘアメイク、メイクアップの施術に従事しているだけでなく、設立以来30年の歴史を有するヘアメイク事務所の主宰者である。この莫大な蓄積をもとに、化粧品に関する基礎的地識と取り扱い上の実践的なノウハウに関する授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	原田				
科目名	国家試験必須科目（関係法規・制度）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10		
教育目標・ ねらい	(1) 美容師に必要な法を理解し、具体的な法の執行作用(行政処分等)について理解する (2) 正しい法理解に基づく遵法意識を持つ						
授業回	学習内容			備 考			
1	法の形式と美容師法について <b>【到達目標】</b> (1) 社会生活における法の役割を理解している (2) 美容師法の目的と用語を理解・記憶している (3) 美容師の義務への理解を通じ、衛生の重要性を理解している			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題			
2	1. 前回の振り返り、2. 美容師免許制度と衛生行政について <b>【到達目標】</b> (1) 美容師免許制度の概要を知り、3年後の国家試験の流れを理解する (2) 衛生行政の核となる保健所の美容業に対する関わりを学び、第4回授業の基礎となる諸知識を理解し、記憶している			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題			
3	1. 前回の振り返り、2. 美容所の開設・運営について <b>【到達目標】</b> (1) 美容所の開設の具体的方法を知る (2) 美容所開設者の衛生措置と美容師の義務を対比して理解・記憶している (3) 管理美容師について学び、理容・美容師試験研修センターの役割についての理解を深める (4) 美容所以外での業務について知る			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題			
4	1. 前回の振り返り、2. 美容師・美容所に対する行政処分 <b>【到達目標】</b> (1) 美容所への立ち入り検査の概要と、その違反者に対する行政処分の種類を理解・記憶している (2) 保健所の行政処分に対する異議申し立ての過程を理解している			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題			
5	今まで学んだことのまとめ						
到達目標	美容業に携わる人・施設がすべからく衛生に配慮すべきことが美容師法を貫く根本的概念であることを理解できている。 このことにより、個々の規定の丸暗記ではなく的確な考察と、それに基づく適切な行動がとれるようになっている。						
評価方法	定期試験結果80点満点、小テスト結果合計20点満点の割合で評価する。 なお、所定時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	関係法規・制度(日本理容美容教育センター) 美容師法関係法令集						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	岩崎				
科目名	国家試験必須科目（衛生管理）	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10		
教育目標・ ねらい	消毒法の基礎を学ぶ・公衆衛生学を学ぶ						
授業回	学習内容			備 考			
1	微生物と人との関係を理解する、消毒に関する殺菌・消毒等の言葉の定義を学ぶ。 「到達目標」人の防御反応や殺菌・消毒・滅菌等の違いを説明できるようになる。						
2	物理的・化学的消毒法を学ぶ、手指・器具消毒の具体例を学ぶ。 「到達目標」消毒法の長所・短所を理解し、適正な方法を選ぶことができるようになる。						
3	公衆衛生の歴史・保健 「到達目標」歴史上の人物とその業績を知る。わが国の出生率・死亡率を知りその原因を説明できるようになる。平均寿命の近況も知る。						
4	生活習慣病各論 「到達目標」生活習慣の特徴・危険因子を学び生活に生かせるようになる。死因別にみた死亡率の順位も説明できるようになる。			小テスト実施			
5	喫煙・飲酒・身体活動・睡眠について学ぶ。/習熟度テスト 「到達目標」喫煙者率の推移、飲酒の状況、運動の必要性を学び人に教えられるようになる。習熟度テストにて合格レベルに到達する。						
	学科試験						
到達目標	消毒の必要性を理解し、自分の健康を守れるようになる。						
評価方法	習熟度テスト、小テスト（習熟度テスト80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター指定教科書）、参考資料（JNA等）、配布資料						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	村田				
科目名	国家試験必須科目（香粧品）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8		
教育目標・ ねらい	美容部員として必要な香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことで企業人としての見識や教養を深める。						
授業回	学習内容			備 考			
1	導入、香粧品の定義：香粧品を取り扱うことにあたって必要な法律や注意点を学ぶ。 【基礎化学】物質の構成						
2	香粧品の取り扱い：保存や用法、適正な使用方法を学ぶ。 【基礎化学】物質の量、溶解、コロイド						
3	水性原料、油性原料：香粧品の主原料となる成分の種類や特徴を学ぶ。						
4	界面活性剤：4種類の界面活性剤の特徴、使用用途を学ぶ。						
	色材・香料：香粧品のアクセントとなる香料の原材料、色材の特徴や長所と短所を学ぶ。						
到達目標	美容部員としての通常業務における使用薬剤・効能などの知識の獲得						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	保健(日本理容美容教育センター指定教科書)、配布プリント						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	今野		
科目名	国家試験必須科目 (美容技術理論)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	2
教育目標・ ねらい	美容技術の知識を学び、衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養う。				
授業回	学習内容				備 考
1	美容理論1 序章 美容実技理論を学ぶにあたって 1章 美容用具、2章 シャンプーイング 【到達目標】 美容用具の種類と特徴を理解し、実習の場面で活用することができる				小テスト実施
到達目標	美容技術の意義を理解し技術を行う場面で論理的に展開できる実習にスムーズに入ることができる				
評価方法	小テスト（12問）にて7問以上得点すること。6問以下は再テストを実施する。 日本理容美容教育センター レポート100点満点で評価する。評価評点60点以上とする。 59点以下は再レポートを実施 なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	美容理論1(日本理容美容教育センター指定教科書) 通信教育レポート：美容理論1				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤		
科目名	国家試験課題実習(ワインド)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題ワインディングを合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1	ワインディング理論、ウィッグ・コーム等を使用しながら確認 【到達目標】 基礎となる理論を理解し、作業の想像ができる。				
2	コームワーク、ブロッキング 【到達目標】 コームを用いて任意に毛髪の分けとりができる。				
3～5	ブロッキングタイム入れ、上巻き、下巻き展示、練習 【到達目標】 基礎となる上・下巻きを適切に行うことができる。				
5～6	国家試験課題ワインディング理論と構成の確認 10ブロッキング、第2ブロック展示・練習 【到達目標】 ・国家試験課題ワインディング技術を理論的に説明できる。 ・左右対称にロッド幅でブロッキングがとれる、スライスを平行にとり第2ブロックを巻き收められる				
7～9	第3、4ブロック展示練習 センター(第2～4ブロック)練習、タイム入れ 【到達目標】 ・オフベースに巻き收める際の留意点理解し、巻き收めることができる。 ・オンベースとオフベースを適切に巻き分けることができる。				
10～12	フロント(第1ブロック)展示・練習 右バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 【到達目標】 ・フェイスラインに対してラウンドして巻き收めることができる。 ・任意のスライスに対して直角に巻き收めることができる。				
13～15	左バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 全頭巻き練習、タイム入れ(35分) 【到達目標】 ・左右のシンメトリーを意識して巻き收めることができる。 ・センターを平行かつ左右対称に巻き收めることができる。				

授業回	学習内容	備 考
16～19	全頭タイム入れ(35～25分) 【到達目標】定められた時間内に留意点すべてを押さえて巻き取めることができる。	
20	国家試験第二課題ワインディング 全頭タイム入れ(25分) 【到達目標】試験時間内に留意点すべてを押さえて巻き取めることができる。	
到達目標	ワインディングの理論と共に基礎技術を身に付け、資格試験課題第二課題の構成を理解し形状を作ることができる	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤		
科目名	国家試験課題実習（カット）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第一課題を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	カット技法、シザースの構造、使用後の手入れを説明、開閉練習 国家試験課題カッティングの説明 ブロッキング、インサイドカット、手入れ方法の説明 <b>【到達目標】</b> 技法毎の特徴を理解する。シザースカットの仕組みが説明できる。 シザースの持ち方と開閉を習得し、毛髪を適切に扱うことができる。 国家試験課題カッティングの構成、技法を説明出来る				
3	開閉テスト、ブロッキングテスト、国家試験課題カッティングの切り方(ヘムライン)パネルの角度とシルエットの説明 <b>【到達目標】</b> 習得した技術を使用して実際に毛髪をカットすることができる。 ステムとスタイルの関係を説明できる。 国家試験課題カッティングのヘムラインをカットすることができる				
4	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習、国家試験課題カッティングの切り方(アンダーセクション、ミドルセクション、オーバーセクション)パネルの角度とシルエットの説明 <b>【到達目標】</b> 頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。 国家試験課題カッティングでアンダーセクション、ミドルセクション、オーバーセクションをカットすることができる				
5	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習、国家試験課題カッティングの切り方(フロント、サイド)パネルの角度とシルエットの説明 <b>【到達目標】</b> 頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。 国家試験課題カッティングの全体の引き出し方を説明できる 国家試験課題カッティングでフロント、サイドをカットすることができる				
6～9	国家試験課題カッティングを(50分)で練習をする <b>【到達目標】</b> 理論と技術行程を理解して、規定に則った作品を30分で作ることができる				
10	国家試験課題カッティング 技術時間50分 実技チェック <b>【到達目標】</b> 理論と技術行程を理解して、50分で国家試験合格レベルで作ることができる				

到達目標	カット理論の基礎と国家試験第一課題・カッティング試験の基礎的技術を理解し、作業時間50分で合格レベルまでの技術を修得する。
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤		
科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	社会的コミュニケーションの基礎となる目配り・気配り・心配りの意義を深く理解する。 また相手の立場に立って行動出来るよう自己理解を深める。各種技法の意味を理解し自己改善を図ることで主体的に実践出来るようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」 【到達目標】職業人としての自覚を芽生えさせる。			ビジネスマナー テキスト p 1~2	
2	自己分析 【到達目標】自分の強みや特徴を把握し、自分を客観的に見ることができる			ワークシート	
3	LESSON1ビジネスパーソンとは① 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】良質な人間関係を築くために基本マナーを知る。			ビジネスマナー テキスト p 4.7~8	
4	LESSON1ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】良質な人間関係を築くための基本マナーを知る。 加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。			ビジネスマナー テキスト p 4.7~8	
5	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネスマナー テキスト p 9~13	
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネスマナー テキスト p 51~54	
7	宿泊オリエンテーション 【到達目標】コミュニケーション能力を習得し、円滑に対人関係を結ぶ				
8	宿泊オリエンテーション 【到達目標】人から信頼される為に、主体的に物事を考え行動に移す				
9	オリエンテーション振り返り			ワークシート グループワーク	
10	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人として言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキスト p 3.p17~24	
11	LESSON3 言葉遣い② 「1-2 OK行動、3-1 敬語、-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキスト p 3.p17~24	
12	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」 【到達目標】『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキスト p 5~6	
13	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 【到達目標】『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキスト p 5~6	

授業回	学習内容	備 考
14	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」 【到達目標】『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようになる。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。	ビジネスマナー テキスト p 5~6
15	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方とマナー」 【到達目標】守るべき行動規範を理解し、社会の一員としてモラルを守って生活することができる。	ビジネスマナー テキスト p 55~56.68~69
16	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキスト p 25~40
17	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキスト p 25~40
18	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応①「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナー テキスト p 41~49.70~71
19	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応②「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナー テキスト p 41~49.70~71
20	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー① 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキスト p 56~67
21	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー② 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキスト p 56~67
22	実務実習の振り返り	ワークシート グループワーク
23	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③ 「6-9 手紙の書き方」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキスト p 64~67
到達目標	職業人を目指すうえで、学んだ知識・技術そして心構えを実践し、相手からの信頼を得られることが出来る。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナー テキスト	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤				
科目名	情報処理	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	年代ごとのヘアメイクの流行を調べ、内容をまとめプレゼンを行う。業界にて必要な年代ごとにおける価値基準共有し、流行を説明出来るようにする						
授業回	学習内容			備 考			
1・2	文化論をもとに時代背景を読み取り、年代ごとの流行をレポートにまとめる <b>【到達目標】</b> ビューティ業界の流れを読み取り、時代背景をプレゼン出来る資料作りが出来る						
3	作成した資料をもとにプレゼンを行い議題をもとに討論をする <b>【到達目標】</b> 伝わるプレゼン力(年代ごとの流行)を身に付けると共に流行における価値観の共有が出来ている						
4~7	共有した価値観をヘアメイクを通して形に出し、年代ごとの作品を通して改めて年代ごとの流行をプレゼンしていく <b>【到達目標】</b> 流行の説明と共にヘアメイクの仕上げ方やポイントをより深く説明することができる						
8	プrezentした内容をデータ構築して情報として流せる形を作る <b>【到達目標】</b> 伝わるプレゼン力(年代ごとの流行)を情報として伝えられる形を作る						
到達目標	年代ごとのヘアメイクの流行を調べ、作品作りと共に内容をまとめプレゼンを行う。業界にて必要な年代ごとにおける価値基準共有し、流行を説明、情報提供出来るようにする						
評価方法	授業課題(プレゼン資料と作品)を総合的に採点(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	日本理容美容教育センター編：美容文化論、配布参考資料、レポート用紙						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	人見				
科目名	表現技術（国語と文章）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	社会で必要なビジネスマナーと面接対策、ビジネス検定試験合格へのスキルを身につける。 接客コミュニケーション、接客時の立居振舞い、なぜビジネスマナーは必要なのかを考える。 日本経済や歴史、情報収集、社内文書作成方法など、幅広い知識を取得し、社会人として役立つスキルを学ぶ。						
授業回	学習内容			備 考			
1	授業ガイダンス：マナーとは何か 第一印象が大切な理由 笑顔と美しいの作り方、敬語の種類、発声法。早口言葉。活舌と声の種類。 目標：第1印象で好印象を与えることが出来るようになる。						
2	面接や仕事場での自己紹介、立ち方、座り方。接客案内時の手の動きと方向。 自分の強み、弱み、魅力を見つける。面接ロールプレイング。 ドアの開閉と接遇、ご案内。 目標：接客・面接においての立ち居振る舞いを実践出来る。						
3	図表、グラフの見方。統計を学ぶ。ビジネス文書の作成方法（社内・社外）。 試験で解答に必要な箇所の読み取り方。 目標：社内・社外の対応の違いを知る。						
4	サービスとは：接客ノウハウ。クレーム処理。プラスの一言。クッション言葉。 売上を上げるために必要なことを学ぶ。 顧客獲得方法とミステリーショッパー対策。 目標：接客のノウハウを覚え、実践出来るようになる。						
5	電話対応：受電と架電。お客様の心理状態を読む。 表情が見えない時の対応方法。メモの取り方。5W2H。 トークスクリプトを使用したロールプレイング 目標：声で接客する場合のコツを身につける。						
6	ビジネス検定試験に必要な暗記方法と勉強方法。ビジネス用語。 ビジネスマールのやりとり。 目標：ビジネス用語の覚え方をマスターする。						
7	ビジネスチャンスを広げる。先を読む力。お客様の支持を得る方法を学ぶ。 要望とニーズの違い。キャリア形成とは。就職、転職、再就職、現代の働き方。 目標：時代を読んで自分自身のキャリア形成に生かす						
8	コンプライアンスと接客の基本。売上戦略とは。新聞の読み方、8つの意識。 PDCAサイクル。TPO,社外の付き合い方、冠婚葬祭。 目標：人との関わり方を学び、実践する。						
到達目標	社会で必要なビジネスマナーの取得。美しい所作、立ち居振る舞いを身につける。 ビジネス検定試験のテキストを参考に、洗練された接客対応の実践が出来るようになる。						
評価方法	ビジネス検定試験合格による単位取得 / 敬語小テスト・ビジネス検定試験小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	2024年 ビジネス検定試験テキスト、問題集。配布プリント。						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	石川		
科目名	ファッショント学(色彩学)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	46
教育目標・ ねらい	AFT色彩検定3級及び2級の内容を通して、色彩に対する興味と理解を深め、将来の職業に役に立つ色彩の知識とセンスを修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	検定内容の説明・授業の進め方・目標設定 色彩心理テスト・カラートランプ作成 <b>【到達目標】</b> ・検定の内容と授業の目的を理解し、目標を設定する。 ・色彩心理テストを通して色に興味を持ち楽しく学ぶためのカラートランプを作成する。				
2	色の分類と三属性・PCCS <b>【到達目標】</b> ・検定合格に必須となるPCCSの基本を理解する。				
3	色はなぜ見えるのか? <b>【到達目標】</b> ・色が見えるメカニズムを理解し、色に対する興味を持つ。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
4	眼の仕組み 照明と色の見え方 <b>【到達目標】</b> ・眼の仕組みを理解する。 ・照明による色の見え方の違いを理解する。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
5	三原色と混色、色の対比と同化 <b>【到達目標】</b> ・三原色と二つの混色の違いを理解し、混色によって色を作り出せる知識を修得する。 ・色の対比と同化を理解する。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
6	色相を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色 <b>【到達目標】</b> ・配色の基本的な考え方を理解する。 ・色相をもとにした配色とトーンをもとにした配色を理解する。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
7	色相とトーンを手がかりにした配色 配色の基本的な技法・配色イメージ <b>【到達目標】</b> ・色相とトーンを組み合わせた配色を理解する。 ・配色技法を理解し、日常の中から見つけられるようにする。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
8	3級テキスト範囲の小テスト 色彩心理テスト <b>【到達目標】</b> ・3級テキストの内容が理解できるかどうか確認する。 ・色彩心理テストを通じ色がどのように心理に働くか理解する。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	

授業回	学習内容	備 考
9	色のユニバーサルデザイン 光と色①(視細胞) 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"><li>・日常にあるユニバーサルデザインについて色の活用方法を知る。</li><li>・視細胞について理解する。</li></ul>	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
10	光と色②(照明) ビジュアルデザインの色彩・メディアデザインの色彩 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"><li>・照明について理解する。</li><li>・ビジュアルやメディアの仕事で活用されている色彩の知識を理解する。</li></ul>	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
11	マンセル表色系 【到達目標】 検定2級に必須となるマンセル表色系について理解するとともにPCCS表色系との違いについても整理する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
12	小テスト 色彩心理テスト 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"><li>・ここまで内容が理解できるかどうか確認する。</li><li>・色彩心理テストを通じ色がどのように心理に働くか理解する。</li></ul>	
13	色の視覚効果・色の心理効果 色彩調和・自然の秩序からの色彩調和 【到達目標】 色の視覚効果と心理効果について理解するとともに3級で学んだ内容との違いを整理する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
14	配色技法① 【到達目標】 2級に出題される配色技法を理解し、それをもとにPCCSカラーカードを使用して配色できるようになる。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
15	配色技法② 【到達目標】 2級に出題される配色技法を理解し、それをもとにPCCSカラーカードを使用して配色できるようになる。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
16	イメージ別配色法 【到達目標】 配色とイメージを結びつけ、イメージをもとにPCCSカラーカードで配色できるようになる。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
17	配色演習 【到達目標】 2級テキストの配色を演習を通して理解する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
18	ファッショングの色彩と配色 【到達目標】 ファッショングで活用されている色彩の知識を理解する。	

授業回	学習内容	備 考
19	インテリア 景観色彩・色名 【到達目標】 インテリアや景観で活用されている色彩の知識を理解する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
20	検定対策 【到達目標】 検定対策問題を通して、検定出題傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をする。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
21	検定対策 【到達目標】 検定対策問題を通して、検定出題傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をする。	
22	検定対策 【到達目標】 検定対策問題を通して、検定出題傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をする。	
23	検定振り返り・答え合わせ・解説 【到達目標】 色彩検定の解答・解説を通して自身の合否を確認する。	
到達目標	・ ファッション等における配色の基本を身につける。 ・ 色彩理論を理解し、他者に伝えることができるようになる。	
評価方法	提出課題（作品）・課題レポート（80%）、リアクションペーパー・小テスト（20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。	
テキスト	AFT色彩検定3級及び2級公式テキスト AFTカラーカード	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容サロン勤務及び4年以上のデザイン事務所勤務の経験を踏まえ、ビューティアーティストとして身につけるべき色彩構成と、それに基づく具体的提案ができるようにする	

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	Reina				
科目名	ファッショング(キャラクターメイク)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	28		
教育目標・ ねらい	クオリティの高い作品を作れるよう、見た目だけではなく、歴史背景や物語、キャラクターを理解した上で作品制作を行う。上辺だけではない深みのある作品を作る為に必要な要素を学ぶ。						
授業回	学習内容			備 考			
1	神話とその歴史・材料について・デッサンシート記入			グループワーク			
2	デッサンシートに基づき実習			グループワーク			
3・4	作品制作→提出用作品の撮影			グループワーク			
5	総復習						
到達目標	全国規模で行われるフォトコンテストの入賞を目指す。クオリティの高い作品を提出する。						
評価方法	プロジェクト課題作成の有無、出欠席と撮影作品の仕上がりから評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	テーマに沿って作成したパワーポイントを使用。						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は自ら主宰する美容サロンでの実績に加え、各種メディアでのグラビア、化粧品会社の広告宣伝等におけるメイクアップの経験により培った特殊メイク、ボディペイント等に関する高度な知識と技術を伝える						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	近田				
科目名	ファッショングループ（トレンドメイク）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ねらい	メイクトレンドや旬なコスメ情報を学び、メイクの引き出しと表現力の幅を広げる。デモンストレーションや資料を見ながらトレンド情報を発信。季節の肌作りからメイクバランスを理解し、メイクアップで表現出来るようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1～2	・メイクトレンド 春 トレンド知識を学び、トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。						
3	・メイクトレンド 夏 トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。						
4～5	・メイクトレンド 秋 トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。						
6	・メイクトレンド 冬 トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。						
到達目標	メイクの流行を理解し、トレンドメイクバランスの習得、メイクアップで表現出来るようになる。						
評価方法	演習においてモデル実践での習熟度より100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	配布資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	星野		
科目名	ファッション学(パーソナルメイク)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	パーソナルカラーを使った実用メイクアップ				
授業回	学習内容			備 考	
1	ブラシ・スポンジの基本的な使い方をもとに肌色に合わせたメイク				
2	前回の復習を行い、ペアでディベートを行う				
3	前回の復習、ディベートでの問題点をペアで話し合う 現場を意識した実技を行う				
4	現場を想定し、ペアでメイク・接客を行う				
5	カラー診断、タッチアップを行う				
6	総復習				
到達目標	パーソナルカラーを見つけ、似合わせメイクをすることができる				
評価方法	課題作品より100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	配布資料、参考資料				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	古莊		
科目名	ファッション学（フォト）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	4
教育目標・ ねらい	写真撮影のセンスと機材の取り扱いを学ぶ。ファッションフォト撮影がそれほど難しくないものだ、と認識してもらう。				
授業回	学習内容			備 考	
1	スタジオを設定し、各自でカメラの設定を行い、ヘアメイク作品を作成する。				
2	1回目とはまた別のライティングによる、スタジオでの撮影実習。				
到達目標	人物撮影に関し、ライティングを活用した撮影が出来る				
評価方法	作品提出により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	オリジナルテキスト「美容フォト資料」「美容フォト資料 設定編」				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤		
科目名	ファッショニ学(美翔祭)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	18
教育目標・ ねらい	実際にお客様を担当することで、憧れだった職業を現実的に体感し、接客や技術向上を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	学園祭技術ブース内容決め 【到達目標】お客様の目線に立ち喜んでいただける技術内容を決定する				
2～9	技術接客練習 【到達目標】お客様の要望を引き出し、技術模擬店にて要望に応えられる技術や接客が提供出来るようになる				
到達目標	学園祭を通し、お客様に満足していただける技術や接客はどのようなものか考え、実際におもてなしすることが出来るようになる				
評価方法	課題作品により100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤		
科目名	学外実習	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	① 業界理解を深める為、実際の現場で業務の流れを学ぶ ② 主体的に仕事に取り組む姿勢を学び、仕事の優先順位を学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1	<b>【学外実習①】</b> 1. 現場を知る 2. ここで得た知見を自分の将来像決定に活かす 1年次：7月 14時間 (1日7時間勤務) 実習先：美容サロン(ヘアメイク部門)・ネイルサロン・ブライダルサロン等				
2	<b>【学外実習②】</b> 1. 自分がしたい仕事の分野はどこかを決める 2. この実習を通して、具体的な就職分野を明確にする 1年次：11月 46時間 (1日8時間勤務) 実習先：美容サロン(ヘアメイク部門)・ネイルサロン・ブライダルサロン等				
到達目標	1. 現場体験を通してビューティ業界に携わる自己の職業観・職業意識を確立する 2. 学内で学んだ知識と技術を活かし、現場で「お客様」にはならず、どんな役割でもきちんとこなし、スタッフに愛され、重宝される存在として、存在価値を認めてもらえる人間となる				
評価方法	実習先からの評価と本人評価をもとに担任面談を通して学外実習の最終評価を行う。なお所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	配布プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・齊藤				
科目名	学内コンテスト	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	選択	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	学園祭・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争して一つの物事を成し遂げることで業界理解や社会性を養い、学生全体が今後の業界で活躍できる力を養う						
授業回	学習内容			備 考			
1~6	<p><b>《学園祭》</b></p> <p>技術模擬店を出展し、来校されたお客様に満足の頂ける接客・技術を提供する</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>模擬店内容を話し合いにより確定し、お客様に満足してもらえる接客や技術を提供できる模擬店舗経営をする</p>						
7・8	<p><b>《匠すと》</b></p> <p>校内コンテストで1年次の最終成果物を作成し、研鑽してきた技術を競う</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>出場競技ごとにイメージした作品を作り上げ、成果物として提出・参加をする</p>						
到達目標	学園祭・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争する姿勢の大切さを理解し、今後の業界で活躍できる力をつける						
評価方法	行事ごとの成果物に対し評価を行う。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない						
テキスト	参考資料・配布資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						